

序

『相関社会科学』編集委員会

本誌『相関社会科学』は、東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻(相関社会科学コース)が中心になって発刊している学術誌である。学際的・総合的な社会科学研究の創造と進展を目的とし、1990年の創刊から今回で第25号を迎える。

本号の構成はつぎの通りである。まず本号の中心となる論文2編はいずれも一般公募によるものである。一般公募には5編の応募があった。例年と同じく、すべての論文に関して匿名の複数のレフェリーによる厳正な審査をおこない、この2編が掲載されることとなった。惜しくも掲載に至らなかった論文もふくめ、投稿していただいた方々、レフェリーの方々、そのほか本号の作成にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げたい。

公募論文に続いて、調査報告論文を3編、書評論文を2編掲載した。前者は相関社会科学コースが2014年度に取り組んだ「(不)可視化されるコミュニティ」をテーマとする学術調査の成果の一部である。

また今号独自の企画として、相関社会科学コースの森政稔教授による著書『〈政治的なもの〉の遍歴と帰結』をめぐる若手研究者3名の考察および森教授によるそれらへのリプライを掲載した。相関社会科学コースの日常的な関心を知っていただく一助になれば、幸いである。